

岡山大学広報

# いちょう並木

OKAYAMA UNIVERSITY MAGAZINE



OKAYAMA  
UNIVERSITY

牛窓臨海実験所とタラ オセアン財団の共同研究

## 瀬戸内海の 環境調査を実施

Vol. 97

2021

### CONTENTS

高校eスポーツ部の活動を支える「チームドクター」  
性のあり方“セクシュアリティ”について知る・考える

岡山大学の研究誌 脳神経内科学 山下徹

広い世界で活躍する岡山大学の学生たち

OU NAVI

## Tara Océan (タラ オセアン) 財団

フランス初の海洋に特化した公益財団。  
世界中で科学探査し、海洋保全の重要性を発信。

2003年、ファッショングループデザイナー アニエス・バー氏によって設立され、フランスで初めて海洋に特化した公益財団法人として認定。科学探査スクーナー船「タラ号」を用いて、科学探査と海洋保全のための活動を世界各地で行っている。日本の拠点となる(一社)TARA JAPANは、2016年に設立され、日本での活動にも力を入れている。「Science特別号」に掲載された論文5本を含め、多くの研究成果があがっている。

### タラ号

過酷な環境にも耐えられるよう設計された科学探査スクーナー船。1989年フランスで建造、2003年アニエス・バーとその息子でアニエス・スペーフランス本社COOのエチエンヌ・ブルゴワが船を買い取り、「タラ」と改名。以後、世界の海洋で環境に関する様々な科学探査プロジェクトを実施している。



Fondation  
**tara***ocean*  
世界と共に

**tara**.JAMBIO



The Tara Ocean Foundation



UMIを拠点に瀬戸内海の環境調査を実施!

## Tara-JAMBIO

# マイクロプラスチック 共同調査プロジェクトを開始



海洋に特化したフランスの公益財団「タラ オセアン財団」の日本事務局「TARA JAPAN」と「JAMBIO(マリンバイオ共同推進機構)」のネットワークが連携し、日本の海域で始まったマイクロプラスチック共同調査。岡山大学理学部附属 牛窓臨海実験所:Ushimado Marine Institute(UMI)を拠点に、瀬戸内海の各海域で共同調査を実施しました。その概要と意義、関連するUMIの多彩な研究活動を紹介します。

調査には筑波大学(3人)、TARA JAPAN(2人)、岡山大学(4人の)研究者やスタッフに加え、詩人や音楽家など地元のアーティストの方も3人同行しました」と話すのは技術職員として参加した齊藤和裕斯タッフ。「海洋調査にアーティスト?」と思うやもしないが、「タラ オセアン財団」のプロジェクトでは、科学者と共にアーティストも同行し、その後制作されたアート作品を通じても「海の現状」を世界に発信するというユ

その活動は、グローバルな海洋調査・研究という特性から世界各地の研究機関とのコラボレーションも活発で、令和2年10月には、フランスの「タラ オセアン財団」の日本事務局「TARA JAPAN」と、日本の沿岸海域の「マイクロプラスチック」汚染の調査を共同で実施した。

これまで欧州を中心に実施された調査「これまで欧州を中心に実施された調査を元にJAMBIOの各臨海実験所の船を使つて、日本沿岸海域全体を調査する計画がなされました」と話すのは、UMIの坂本竜哉所長。現在、「全国臨海臨湖実験所長会議」の議長も務めている。日本での調査のスタートとしてUMIが選ばれたのも、こうしたこれまでの取り組みが評価された点も大きい。



二回の試みを続けています。

今後は、採取したサンプルに含まれるマイクロプラスチックの量と付着している微生物や遺伝子を解析し、海洋生物に与える潜在的な影響の評価と定義付けが行われる。データを網羅的、長期的に集積することで、生態系の異常検知が可能となり、災害やコロナ禍など不測の事態に対しても早期に対策を講じることができます。

こうした地道なデータの積み重ねが、今後の環境保全につながるものと広く期待されている。

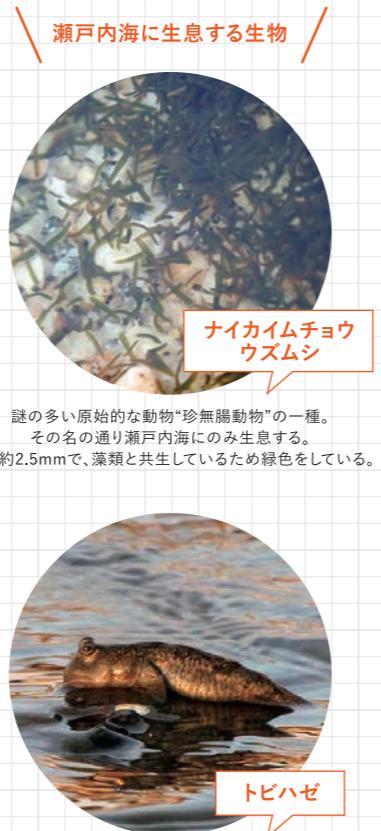
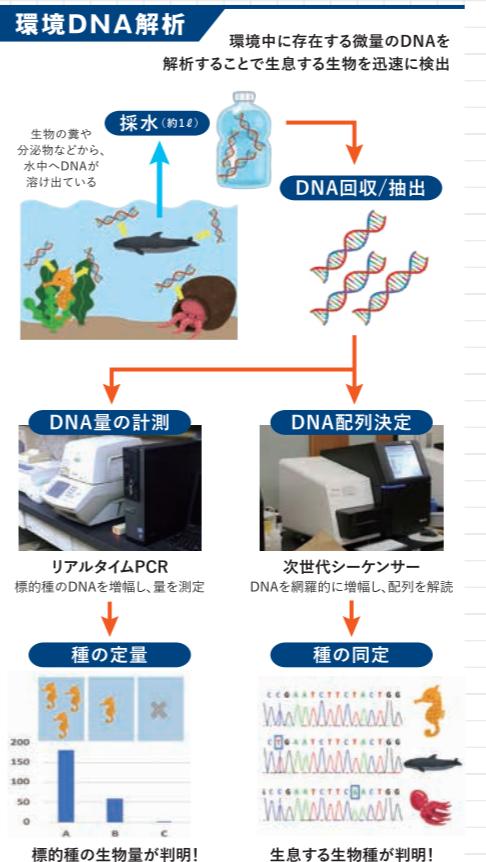


瀬戸内海を皮切りにマイクロプラスチック調査を開始。UMIを拠点に各海域を調査。

～海の豊かさを守る～

## 環境DNA解析による 生物モニタリング

環境中に存在する生物由来のDNAから  
生息する生物を効率的に検出。



岡山大学理学部附属  
牛窓臨海実験所  
Ushimado Marine Institute, UMI



Ushimado Marine Institute, UMI

瀬戸内海の豊かな動物相を生かし、学生の教育や最先端の研究を推進。高度な実験生物学のメッカとして、西日本トップの臨海施設と評価されている。文部科学省より教育関係共同利用拠点に認定されている。世界中の研究機関との連携で「海の豊かさを守ろう」というSDGsの目標に則した実験・研究にも取り組んでいる。



濱田 麻友子

■専門分野／進化生物学、ゲノム科学

昭和51年生まれ。愛知県出身。お茶の水女子大学理学部卒。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科修了。博士（理学）。京都大学、沖縄科学技術大学院大学、キーラル大学などを経て平成28年より現職。子供の頃から生き物が好きで、大学の臨海実習で、海の動物の不思議さと発見の楽しさに感動し、研究の道へ。美術が好きで、絵を描くことがリフレッシュ方法のひとつ。ついで、動物の絵を描いてしまうそ。

つながることが大切」とパートナー・シップの重要性を強調する。その言葉通り、これまでUMIは国内の国立大学臨海実験所はもとより、フランスのソルボンヌ大学のロスコフ生物学研究所、アメリカのハワイ大学など世界レベルの研究拠点とコラボレーションを続けてきた。生物の多様性に富む瀬戸内海を拠点に多彩な研究活動を続けるUMI。国連が掲げる持続可能な開発目標「SDGs」にも合致した海の豊かさを守る活動は、日本のみならず世界からも注目を集めている。

具体的な手法としては「次世代シーケンサー」や「リアルタイムPCR」を用いて高解像度での解析を行い、環境サンプルにつながることが大変」とパートナー・シップの重要性を強調する。その言葉通り、これまでUMIは国内の国立大学臨海実験所はもとより、フランスのソルボンヌ大学のロスコフ生物学研究所、アメリカのハワイ大学など世界レベルの研究拠点とコラボレーションを続けてきた。生物の多様性に富む瀬戸内海を拠点に多彩な研究活動を続けるUMI。国連が掲げる持続可能な開発目標「SDGs」にも合致した海の豊かさを守る活動は、日本のみならず世界からも注目を集めている。

「環境DNA」の調査・解析は、客観的かつ効率的にデータが収集できるのがメリットです。昔は生物の生態調査といえば、直接生き物を捕獲する、もしくは現地で観察する方法しかありませんでした。それには多くの労力と高度な専門知識と経験が必要です。それに対し「環境DNA」解析では現地の作業は水を汲むだけです。また、海水に含まれる生物の糞や分泌物中のDNAを解析するので、生物そのものを傷めることもありません」。

UMIが取り組む活動で近年注目を集めているもののひとつが「環境DNA」調査。環境中に存在する生物由来のDNAを解析することで、そこに生息する生物の種類や、およそその生物量の把握が可能になる。「隠れている生物、見えない生物」の存在を確認できる効率的な生物モニタリングとして注目されている。

「環境DNA」調査を手がける中心メンバーひとり、濱田麻友子准教授はその概要とメリットをこう説明する。

「環境DNA」調査・解析は、客観的かつ効率的にデータが収集できるのがメリットです。昔は生物の生態調査といえば、直接生き物を捕獲する、もしくは現地で観察する方法しかありませんでした。それには多くの労力と高度な専門知識と経験が必要です。それに対し「環境DNA」解析では現地の作業は水を汲むだけです。また、海水に含まれる生物の糞や分泌物中のDNAを解析するので、生物そのものを傷めることもありません」。

具体的な手法としては「次世代シーケンサー」や「リアルタイムPCR」を用いて高解像度での解析を行い、環境サンプルにつながることが大変」とパートナー・シップの重要性を強調する。その言葉通り、これまでUMIは国内の国立大学臨海実験所はもとより、フランスのソルボンヌ大学のロスコフ生物学研究所、アメリカのハワイ大学など世界レベルの研究拠点とコラボレーションを続けてきた。生物の多様性に富む瀬戸内海を拠点に多彩な研究活動を続けるUMI。国連が掲げる持続可能な開発目標「SDGs」にも合致した海の豊かさを守る活動は、日本のみならず世界からも注目を集めている。

浜田 麻友子  
HAMADA Mayuko

大学院自然科学研究科(理)准教授



### Student Voice

かわしま ゆい  
河島 優衣さん ■岡山共生高校 2年

eスポーツの魅力は、先輩後輩・男女の垣根が低いので、楽しく教え合いができる。コロナ禍ですが、部活もできるし、家にいても練習や試合ができるところです。神田先生が着任する前は、目や指など身体の不調はプレイをやめるしかなかったけれど、今は神田先生が「続けるためにアドバイスをくれる」ので安心感が違います。神田先生は部員にとっては「寒い夜の毛布のような存在」です。進路のことや家庭のことも相談させてもらっています。



と依頼されました。

具体的な活動としては、定期的(原則月

1回)に同校を訪問して生徒たちから健

康面についての聞き取り、指導を行ってい

る。チームドクターの存在は重要で、くしくも新型コロナウイルス禍で休校措置がとられた昨年の5・6月、寮生活だった部員のひとりは「休校期間は実家に帰り、昼夜逆転になつて遅くまでゲームをしていた。食事もあまりとらずにいた」とのこと。こうしたことから、もともと生徒たちの体格改善の必要性、体力のなさを感じていた神田教授は、生徒たちの部活日誌に「朝食を食べたかどうか」を書くチェック欄を設け、毎日書くよう指導した。結果、寮の管理人からは「生徒たちが朝食をしっかり食べるようになった」と喜びの報告が届いたそうだ。

日々真摯な姿勢で練習に取り組む生徒たちの姿を見ていると一

般で言う『ゲームオタク』なんかじゃない。『アスリート』そのものです。あいさつも掃除も規律もきちんとしています。『勝ちに喜び、負けて泣く』。eスポーツとしての『eスポーツ』に生徒たちが安心して取り組めるよう、メディアの見地から生徒たちに寄り添います」と想いを語る神田教授。ちなみにゲームの盛んな北米では、「eスポーツ」を教育に取り入れる試みも登場している。ただ「eスポーツ」はまだ歴史が浅く、どんなゲームが依存症になりやすいか、1日何時間までの練習なら健康に悪影響がないかといった研究成果が不足しているのが現状。「投手に投球制限を設けた高校野球を参考に、研究を重ねつつ、横のつながりを通して健康に関するガイドラインを作りたい」と神田教授。生徒たちを囲み込むような穏やかな笑顔が印象的だった。



## 学校法人 天真学園 岡山県共生高等学校 eスポーツ部 Okayamaken Kyousei High School e-Sports Club

2018年秋に創部。現在の部員は男女20人で、1年生16人の大半は同部での活動を望んでの入学。「ゲーム好きからeスポーツアスリートへ」の想いを胸に、第1回全国高校e-Sports選手権大会では準優勝に輝いた全国有数の強豪校だ。



## 高校eスポーツ部の活動を支える 「チームドクター」

依存症予防の専門家として生徒たちの健やかなファイジカル&メンタルをサポート。



## 神田 秀幸

KANDA Hideyuki

大学院医歯薬学総合研究科(医)教授  
■専門分野／公衆衛生学  
昭和47年生まれ。島根県出身。島根医科大学医学部卒。国立公衆衛生院専門課程(MPH)、滋賀医科大学大学院博士課程(博士(医学))修了。福島県立医科大学・横浜市立大学・島根大学を経て令和元年より現職。平成25年10月 第23回日本公衆衛生学会奨励賞

対戦型コンピューターゲームの腕前を競う「eスポーツ」。「eスポーツ」という言葉自身は2000年頃から広がり始め、高い瞬発力や判断力が求められる「スポーツ」として海外では早くから地位が確立、世界の競技人口は1億人以上と推定され、野球よりも多いと言われている。現在日本でも高校の「部活動」として本格的に採用され始め、全国規模の大会が行われるまでになった。そんな「eスポーツ」の強豪校が新見市にある岡山県共生高等学校。2020年4月には大学院医歯薬学総合研究科の神田秀幸教授が同校から、「国内初のeスポーツ部チームドクター」として委嘱を受けた。

もともと神田教授は、長年にわたって酒

やタバコ、ギャンブルやインターネットなど、依存症の研究に取り組んでおり、厚生労働省の研究事業メンバーを務めるなど、国内外でも屈指の「依存症研究の専門家」のひとり。今回、「eスポーツドクター」として同校をサポートするに至った経緯を神田教授はこう説明する。「2019年8月、岡山大学に着任して、この岡山の地で私が取り組んできた『予防医学』の知識やノウハウが『eスポーツ』に活かせないものか?と考えていました。そんな時、岡山共生高校のeスポーツ部のことを知り、高校へ自らアプローチしました。学校側もゲー

ム依存症による子供たちの健康被害を防ぎたいという思いがあり、後藤浩校長から『医師の立場でアドバイスしてほしい』



# 脳神経内科学

山下 徹

新しいタイプの幹細胞で治療する。

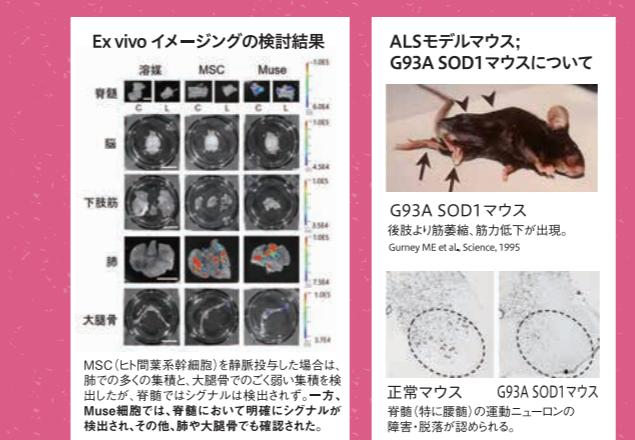
**「筋萎縮性側索硬化症(ALS)」**

ALS患者の約5～10%は家族性であり、その家族性ALSの約10～25%に「superoxide dismutase」(通称SOD)という遺伝子の変異が認められる。

ALSの発症原因は現在も不明で、その治療にはグルタミン酸拮抗剤リルゾールとラジカル消去薬エダラボンが使用されているが、根本的治療薬は存在しないのが現状。そのため新たな治療法の開発が強く望まれている。

今回、同科の阿部康一教授と山下徹准教授、東北大学大学院医学系研究科の出澤真理教授の共同研究グループは、ALSモデルマウスにヒト骨髄由来Muse細胞を経静脈的に投与すると、運動機能などにおいて症状進行抑制効果があることを発見した(研究成果は2020年10月13日、英国科学誌「Scientific Reports」のResearch Articleとして掲載)。

このMuse細胞の特徴について山下准教授はこう説明する。「Muse細胞は、2010年に東北大学の出澤教授の研究グループによって発見された多能性幹細胞で、骨髄、血液、各臓器の結合組織などに存在する修復幹細胞です。この細胞には他の幹細胞ではない、いくつかの利点があり、そのひとつが『生体に存在する自然の幹細胞』であるため、『腫瘍性がない(がん化しない)』という特徴があります」。



各種運動機能評価テストでも  
Muse細胞投与群は改善する傾向に

中央がMuse細胞を投与したマウス。ALSマウス17週齢では、両下肢の麻痺症状が強く、通常ロータロッド上で100秒以上走ることはできない(細胞なしのマウスは早々と落下)。左のMSC細胞を投与されたマウスもロータロッド上でなんとか走ったが、両下肢の麻痺は明らかだった。一方、Muse細胞を投与されたマウスは麻痺症状が軽く、この時は261秒/300秒と良い記録を計測。17週齢のALSマウスでは、このような記録ができることは稀で、その結果は研究スタッフ達に驚きをもって受け止められた。



## 点滴投与のみ、HLA適合や免疫抑制剤も不要。

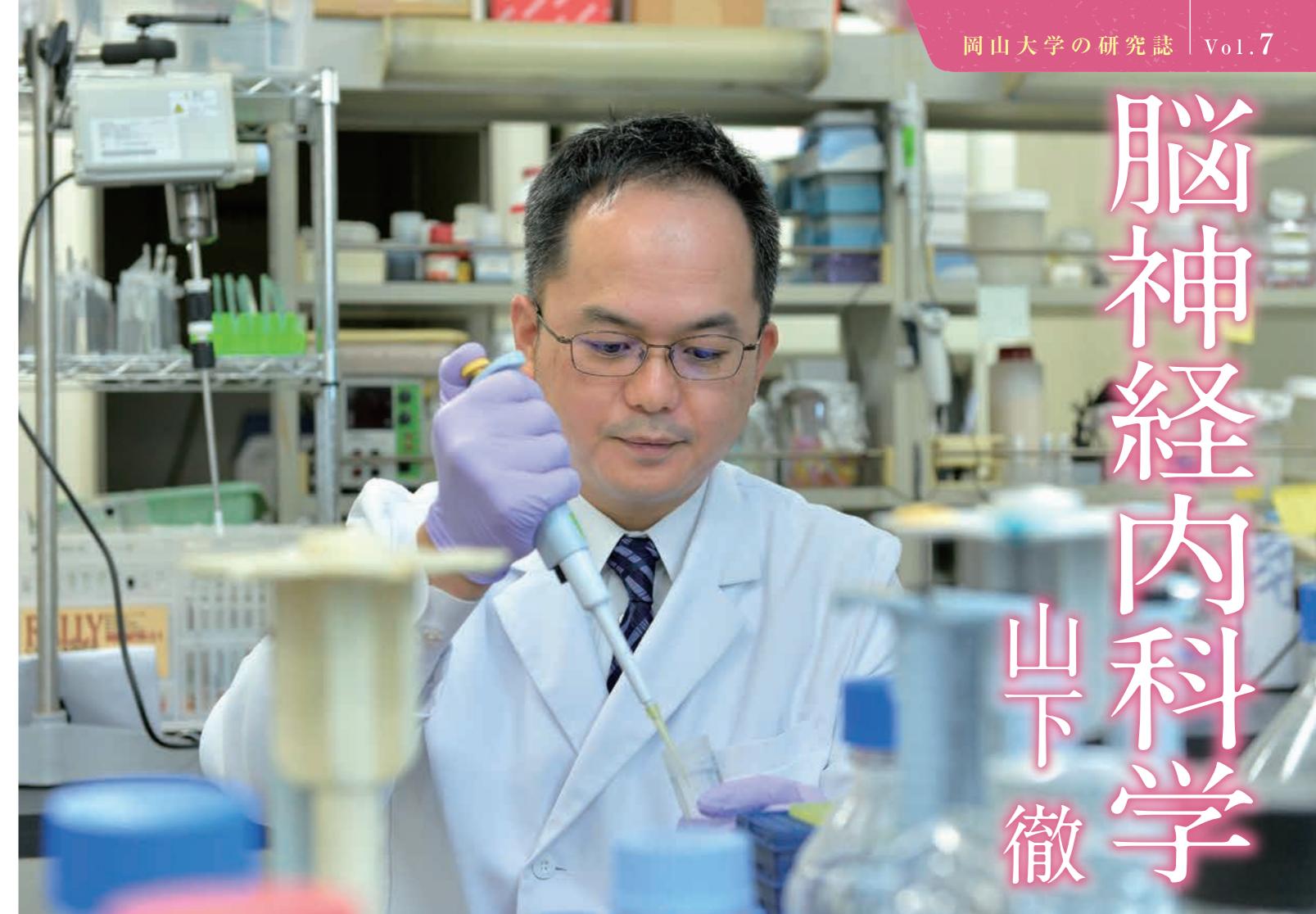
今回のMuse細胞による治療法、運動機能などにおける治療効果に加えて、患者にとってのメリットを山下准教授はこう指摘する。

「まずは点滴投与をするだけで、傷害部位を感じし、そこに集積できるという点。傷害を受けたあと、臓器ごとに特徴のあるシグナルを出しますが、一方でどの臓器も共通に出す『警報シグナル』があります。Muse細胞には、その『警報シグナル』を認識する受容体があるため、点滴投与されると、血液中を巡るうちに傷害部位がどこであるかを認識し、そこに集積することができます。加えて、Muse細胞は、他人のMuse細胞(ドナー由来)であっても、臓器移植や骨髄移植で必要とされる白血球型適合(HLA適合)や、長期にわたる免疫抑制剤を必要としません。こ

大学院医歯薬学総合研究科(医)准教授

山下 徹  
(やました とおる)

昭和51年生まれ。香川県出身。岡山大学医学部卒。岡山大学大学院医歯薬学総合研究科修了。博士(医学)。慶應義塾大学医学部生理学共同研究員・米国コロニアビア大学博士研究員・岡山大学病院助教などを経て令和2年より現職。岡山医学賞(平成22年2月)、第34回日本心臓財団草野賞(平成22年4月)、第6回日本認知症予防学会浦上賞(平成28年9月)



れはMuse細胞には胎盤と似た特殊な免疫調整能が備わっていると考えられています」と続けた。  
最後に今後への想いと展望を尋ねると、  
「実験当初、ALSモデルマウスは運動麻痺症状の進行が非常に早く、予備検討などが大変でしたが、今回ようやく成果が出て今は喜びでいっぱいです。今回の成果で、ALSで苦しむ患者さんにむけて、新しい治療提案できる可能性が出てきました。今後は臨床応用にむけた治験を進め、患者さんに役立つ治療法につなげよう、頑張りたいと思います」と気持ちを新たにする山下准教授。聞けば、山下准教授の祖父も、神経変性疾患のひとつ、パーキンソン病を患っていたとのこと。山下准教授自身、今回の研究成果を知った多くのALS患者や家族からの期待の大きさを実感する日々。新しい治療法確立への想いは人一倍強い。

# ブレイクダンス

*Break Dance*

技が成功した時の達成感、音にハマったときの感覚がブレイクダンスの最大の魅力。

2024年。パリ五輪の追加競技として正式決定したブレイクダンス。音楽にのせ、回ったり跳ねたりとアクロバティックな動きで観客を魅了する。

パリ五輪の出場候補として期待を集めるのは、梶山陸人さん（経済学部2年、SBSF所属）。令和2年9月に開催されたJDSFブレイキンブロック選手権中四国ブロック（18歳以上男子の部）で優勝を果たし、第2回全日本ブレイキン選手権で6位に入賞した。「全日本では、音をしっかりと感じて伸び伸びとパフォーマンスが出来ました」と笑顔を見せる。

ダンスを始めたのは、小学1年生。フジテレビの番組『めちゃや、イケてるッ!』の企画で、くるくると回るオカザイルの岡村隆史さんに「くぎづけに…。オレは岡村さんになりたい!」と母親に宣言し、ダンススクールに通うようになったという。ロックダンスを中心とした様々なジャンルに挑戦し、小学5年生からは本格的にブレイクダンスの道へ。ブレイクダンスの魅力は、「技が成功した時の達成感」。この達成感はブレイクにしかない魅力。特に音にハマったときは「シャーッ!」てなります」と笑います。



大切にしているのは“音”との対話  
技のブラッシュアップを重ね、  
バトルに挑む

技の完成度に加え、梶山さんが大切にしているのは“音にどうアプローチするか”という音楽性。大会は1対1のバトル形式で行われ、DJがチョイスした音楽にのせ、即興でダンスを披露し合う。バトルは、1970年代初頭、ニューヨーク・サウス・ブルック地区の貧困地帯を起源に、抗争をまとめための手段として生まれ、発展したと言われている。「スクランチ音に合わせてアレンジしたり、瞬時にネタを変えたり…バトル中は音と対話し、楽しみながらやっています」と梶山さん。どんな曲が流れても自然に体が動くという。「お笑い芸人と一緒で、僕もネタ(技)をどんどんストックして、改良していくんです」現時点での技と、それにひとつ工夫を凝らした技。それを動画で撮影し、比較しながらブラッシュアップを重ねる。迷ったときは、チームメイトや先輩に意見を聞いたり、自分自身がその技をカツコイと感じているか、百発百中でできるなどを考慮してバトルに挑むネタを蓄えていくそう。代表に決まってからは、日々の練習や筋トレに加え、減量や走り込みもトレーニングに組み込んだ。指導者はおらず、よ

り効果的なトレーニング方法を研究・実践し、日々改良を重ねている研究熱心な梶山さん。「今後の目標は、来年の全日本選手権で3位以上を目指すことです」と目を輝かせる。

梶山さんのダンサーネームは陸人の“陸”(LAND)をとつて“LANDALL”(ランドール)。3年後の2024年パリ五輪・ブレイクダンスの舞台でその名を見かける日が来るかもしれない。

その後は、看護雑誌の“入職後に一番使うもののランкиング”や医療系商品を扱う企業のHPを参考に、需要が高く、様々な体形の看護実習服からリメイクが可能な『アルコールボシエット&ポケットインポケット』にリメイクすることが決まった。

その後は、看護雑誌の“入職後に一番使うもののランキング”や医療系商品を扱う企業のHPを参考に、需要が高く、様々な体形の看護実習服からリメイクが可能な『アルコールボシエット&ポケットインポケット』にリメイクすることが決まった。

## 学部の仲間と裁断会を実施

### 後輩にバトンを繋ぎ、

### 全国的な活動に！

「使用後の実習服が適切に廃棄・利用されないと、いう課題が、実際に起きているかを確認するため、4年生80人を対象にアンケートも実施した。

結果は、約4割が後輩に譲る、約3割が捨てる、約1割が記念にとっておくという回答を得た。購入希望の有無や希望価格、デザインについてもヒアリングし、「どちらの商品も購入希望が約7割得られ、やっと企画が現実的になりました」と話す。

「私はアイデアを提案し、商品化を実現してくださいたのはナガイレーベンさんです。パートナーさんやデザイナーさん、工場の方々が何度も試行錯誤してくださ



玉崎  
あおい  
医学部保健学科  
看護学専攻4年  
SDGsアンバサダー

企業と学生でSDGsアクションをおこすということで『つくる責任 つかう責任』をターゲットにすることが決まりました。「当初は繊維に戻す方法やコストについてオンラインでミーティングを重ねました。実習服は医療廃棄物の扱いとなり、再利用が難しいことから、話し合いは膠着状態が続いていましたが、ナガイレーベンさんの社内会議でリメイク案が出たと同じ、私も『それだ!』と方向性が決まりました」。

リメイク!	アルコールボシエット&
ポケットインポケットに	看護実習服を

## 広い世界で活躍する

### 岡山大学の学生たち



◀ JDSF  
BREAKING [youtube]



小学校5年の頃の梶山さん(写真中央)。自転車で転び骨折するも、ダンスの発表会に出席。

梶山  
かじ  
陸人  
りく  
経済学部2年  
SBSF所属







# 世界最大規模のビジネスコンテスト HultPrizeのファーストステージを 岡山大学で初開催!

岡山大学  
SDGsアンバサダー  
活動Report

世界的ビジネスコンテストHultPrizeの第一次選考となるOn Campus大会を、令和2年12月に岡山大学で初開催しました。全7組24人の岡大生がプレゼンターとして登壇し、英語でビジネスプランを披露! 世界の食糧システムの問題点を根本的に解決し、持続可能な社会を発展させるためのビジネスプランを競いました。審査の結果、オーツミルクを日本国内で生産・加工・販売まで行うビジネスモデルを発表したチーム「Oaternative」が優勝! 「Oaternative」は、令和3年3~4月に東京やシンガポールなど世界の大都市で行われるRegional大会(オンライン)に岡山大学の代表として出場します。



## What's HultPrize?



ハルトプライズ財団が主催する世界最大規模のビジネスコンテスト

SDGs達成をテーマに、世界中の大学生・大学院生を対象に開催

優勝チームには約1億円が事業資金として贈られる

国際連合がパートナーとなり121カ国100万人を超える学生が参加

今年度のテーマは「food for good ~ transforming food into a vehicle for change ~」

HultPrize  
@ Okayama University  
**WINNER**

優勝チーム / **Oaternative**

日本のミルクから世界を変える

オーツミルクを日本国内で生産・加工・販売!

食物繊維が豊富で、牛乳などに比べ環境負荷が小さいとされる『オーツミルク』。日本での栽培が少なく普及が進んでいない点に着目し、オーツミルクを日本国内で生産・加工・販売まで行うビジネスモデルを発表しました。まずは、プラットフォームをつくり、オーツ麦を生産。小売業者との交渉を開始します。課題解決をしながらビジネスを進め、将来的には、オーツミルクの重要性に人々が気づき、より環境にやさしく、より健康な世界を目指します。SNSでオーツミルクのアレンジレシピを紹介するほか、スーパー・マーケットやレストラン、学校などで供給してもらうよう働きかけます。



オーツ麦

イネ科植物。Oaternativeは、「オーツ麦と水をミキサーで混ぜて漬すだけ」という工程でオーツミルクづくりを目指す。オーツミルクはほのかな優しい甘みが特長。

まずは、ファーストステージで優勝できてるれしく思います! Regional大会に向け、日本の風土に合ったオーツミルクの栽培について検討を進めるなど、企画のブラッシュアップを重ねています。オーツ麦は牛の飼料としても活用できるので、酪農家と共に存する方法も模索しています。チームで協力し合ってRegional大会でも勝ち残りたいです!(岡本真さん)



Oaternative

(左から)Sonava Tadaoさん(GDP2年)、岡本真さん(経済学部3年)、Alyana Moralesさん(GDP2年)、遠山成美さん(教育学研究科2年)

企画・運営 / 岡山大学SDGsアンバサダー:西本光輝さん(経済学部4年)、澤山幸也さん(経済学部3年)、岡本真さん(経済学部3年)、大野さくらさん(理学部3年)



## 岡山大学広報 いちょう並木

より良い広報誌を作成するために、皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしております。

発 行 : 岡山大学 総務・企画部 広報課

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

Tel. 086-252-1111 Fax. 086-251-7294

E-mail www-adm@adm.okayama-u.ac.jp

<https://www.okayama-u.ac.jp>

岡山大学

検索

アンケート実施中!

先着10名様に

岡大農場ジュレ(白桃)

プレゼント!

